

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

穂高連峰縦走－岩稜にスリルを求めて



奥穂－北穂のスカイライン

8月下旬、岩稜にスリルを求め穂高連峰主脈縦走に挑んだ。南岳新道を登り、北穂(3106m)、奥穂(3190m)、前穂(3090m)と縦走し上高地に下りる計画である。

初日、深夜バスで着いた新穂高温泉から右俣谷をたどり、6時間かけて槍平小屋到着。

翌朝は6時出発、南岳新道を登る。いつも槍ヶ岳からの下山路に使うこの道の、登りはさすがにキツイ。あえぎあえぎの登りにアゴを出し、9時半、やっと南岳小屋に到着した。

いよいよ穂高の主稜線。「ここから先、日本屈指の難所」と書かれた看板に、緊張も新たに大キレットに向かう。ルンゼ状の下りを何か所かホールドスタンスを慎重に確かめつつ下る。キレット底近くになって、しっかりした鉄ハシゴが掛けられていて、やっとホッと

キレット底から最低鞍部までは、更



北穂からの前穂

に下りが続く。左が横尾本谷、右が滝谷の絶壁の岩稜伝いは、身震いするような高度感がある。やがて長谷川のピーク。慎重にホールドスタンスを確か

めながら登る。要所要所にクサリや埋込ボルトがあるのが有難い。ルートが信州側から一旦飛騨側に回りこんだ所がいわゆる飛騨泣き。滝谷に垂直に落

ちこむ岩壁は目のくらむような高度感である。ルートが再び信州側に戻り、三角の岩場をトラバースすると北穂への最後の登り。北穂小屋到着は12時15分。



北穂からの涸沢・奥穂

昼食の後、12時45分出発。北穂山頂でしばしの眺望タイムの後、奥穂へと向かう。南峰を信州側に巻き、やせた岩稜を下る。緊張の一時、岩間の色鮮やかなチシマギキョウの出迎えが嬉しかった。

ピークを2~3個、信州側を巻いた後、ルートは飛騨側の恐ろしげなトラバース。ヤバい箇所足掛かりになる埋込ボルトがあったりすると、さすがにホッとす。涸沢槍はいやらしいガレ場の斜面をクサリに沿ってジグザグ登り。最後に垂直なチムニーをクサリを頼りによじ登ると涸沢岳頂上。目の下に今夜の泊まり穂高岳山荘のシャレた赤屋根が見えた。山荘到着15時。

3日目。4時半山荘出発。奥穂山頂での御来光5時17分。朝日に輝くジャンダルムの威容に目を奪われた。吊尾根経由で前穂頂上が7時半。岳沢を経て上高地到着がちょうど12時。上高地の都会並みの人混みにウンザリした。



奥穂からのジャンダルム